

ばんけい

教育ほつとにゅーす

かわら版

こ みち  
教育の小径 No.101

2017 March

3月号

国士舘大学教授  
北 俊夫先生

今月のひとば

しんみん ちゅうご ちゅうご  
春眠暁を覚えず

春になると、季節がよくなり、夜は寝心地がよいものです。朝になっても目が覚めず、つい寝過ぎてしまうことをいいます。暁とは、夜が明けようとするときです。

## 学校の役割は何か

- 学校の役割は、人間としての人格を形成するとともに、国家・社会の形成者として必要な資質・能力の基礎を身につけ、一人前の社会人を育てることにあります。
- 「子どもたちはなぜ学校で学ぶのか」を教師が意識するとともに、このことを子どもたちにも考えさせる指導が求められます。

## 学校ならではの学びの特質

なぜ、子どもたちは学校に来るのでしょうか。また、どうして学校があるのでしょうか。このことを考えるヒントは、学校と学習塾の違いにあるように思います。

学校は学ぶところ（学舎）であり、学習塾は学校の授業の補習をしたり進学の準備教育をしたりするところ（私設の学舎）です。共に「学力をつける」という共通点がありますが、学び方には大きな違いがあります。学習塾は基本的には個人で学びます。自学が中心です。一方、学校は個人が学ぶとともに、友だちと協力し合いながらみんなと学びます。共に学ぶところに学校ならではの特質があります。

学校では、友だちと関わり合いながら、違いを認め合うことや支え合うことの大切さを学ぶことができます。子どもたちに思いやりの心を養い、友だちと協力することの大切さを学ぶことができるのも学校の特質です。

学校は子どもたちに学力をつけるだけでなく、人間関係をつくる力や社会性や道徳性など人間性を培い、健康でたくましい体力をつけるために貢献するところです。

学校教育の重要な役割は、従来から

知・徳・体の調和のとれた人間になるための基礎・基本を身につけることにあります。このことを日々の教育活動において常に意識し、子どもたちや保護者にも伝えていきたいものです。

このような基本原則を踏まえて、各学校では学校の教育目標や学年・学級の基本方針を定めてきました。

## 改めて学校の役割とは何か

学校の役割は、子どもたちを一人前の人間として必要な人格を形成することだけでしょうか。「人格の完成」を目指すことは重要なことですが、併せて、よりよい「国家・社会の形成者」として必要な資質や能力の基礎を養うことも求められます。

子どもたちは小学校、中学校、高等学校など各学校段階での教育を経て、全てが社会に巣立っていきます。将来、社会で遭遇するさまざまな課題をよりよく解決していく担い手として活躍することが期待されています。

このような視点から学校の役割を改めて考えてみると、「学校はよき社会人になるための準備教育をする場である」といえます。

これまで目の前の子どもたちに学力をつけ、心を育て、体力を養うことを目標に日々の教育活動を展開してきま

した。しかし、中学校や高等学校などと比べて、小学校では日々の教育活動と将来の社会人を育てることを必ずしも結びつけてきませんでした。

学校の役割を改めて考えると、学校教育の出口、すなわち社会への入口を強く意識して教育活動を展開することでもあります。このことは、どのような社会人を育てるかを見据えて各教科等の指導を充実させることです。

## 「なぜ学ぶのか」の指導を

子どもたちからたびたび「どうして算数を勉強するのですか。社会に出て何に役立つのですか」と、質問されることがあります。「なぜ、〇〇科を学ぶのか」について子どもたちに分かりやすく説明することはほとんど行われてこなかったように思われます。

子どもたちは、ただ単に時間割にあるから学んでいるのかもしれませんが。学ぶことの価値や意義や目的を明確に意識しないままに、日々学んでいるのではないのでしょうか。

「なぜ学校に来て学んでいるのか」。短期的な「なぜ」（当面の目的）と、長期的な「なぜ」（将来の目的）の二つの観点から押さえます。時間をとって子どもたちと話し合ってみてはどうでしょうか。

今月の  
記念日

## ランドセルの日

(3月21日)

この日の数字を分解して足し算すると、 $3+2+1=6$ です。小学校の義務教育年数と同じになります。ランドセルをミニサイズに加工する業者が記念日として提唱しています。

# 学校の危機管理

## 報告・連絡・相談

危機的状況とは、事件や事故、災害など危険な状態に遭遇したときだけではなく、危機的な状況に見舞われるかもしれないという予測や予知をしたとき、前ぶれ（前兆現象）を察知したときなども含みます。

こうした非日常の場面に遭遇したとき、あるいは想定されるとき、そうした場面を発見した人は、まず周囲の人に知らせます。その際には、大声を出したり人に伝言したり、メモを渡したりするなどさまざまな方法が考えられます。どのような方法がよいかは、その場の状況によって違ってきます。第一発見者の的確な状況把握と適切な判断力が求められます。

ここでは危機的状況を知らせるだけでなく、対処方法を決定し、問題を解決したり被害をくい止めたり、あるいは最小限にとどめたりするために必要な対応が求められます。こうした場面では、組織的な対応が求められます。組織的とは、学校というチームで問題解決に当たることです。その際、重要なことは、上司や周囲の人たちに「報告・連絡・相談」することです。各語句の1文字を取って端的に「報・連・相」（ホウレンソウ）といいます。

「報告」とは状況を知らせることです。「連絡」とは単に知らせることだけでなく、相手に通報して互いに意思を通じ合わせることです。「相談」とは互いに解決策を考えたり、他人に意見を求めたりすることです。三つの語句は相互に関連し合っています。

学校の危機管理に当たっては、組織の一員としての自覚をもって、「報・連・相」を合言葉にした連携プレーが求められます。

# 教育の動向

## 教育公務員特例法の一部改正

昨年、教育公務員特例法が一部改正されました。改正の主なポイントは次の2つです。

まず、教員の資質向上を定める仕組みを全国的に整備することが新たに示されました。具体的には、各教育委員会が近隣の大学と協議会を設けて、教員の資質向上に関する指標を定めることになりました。その際、文部科学大臣が策定した指針を参考にします。

指標には、教員のキャリアステージごとに修得すべき能力が示されます。教育委員会は指標を踏まえて、教員の研修を体系化し、効果的に実施するた

めの教員研修計画を作成します。

次に、同法では、これまでの十年経験者研修が「中堅教諭等資質向上研修」と、名称が改められました。これからは、中堅教諭等としての職務を遂行するうえで必要な資質の向上を図るための研修を受けることになります。

研修の時期は実施に幅をもたせるなど弾力的になります。該当する人は注意しておく必要があります。

これらの改正は、教育再生実行会議第七次提言「これからの時代に求められる資質・能力と、それを培う教育、教師の在り方について」や中央教育審議会答申「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について」などを受けたものです。同法は、平成29年4月から施行されます。

## シリーズ 研究授業の目 12のポイント 5

### 子どもは発言をつなげているか

教師の発問と子どもたちの発言（応答）がどのように関係しているか。これは研究授業を参観するポイントのひとつです。教師の発問と子どもの反応が「1対1」になっている場面があります。これは卓球（のピンポン玉）にたとえることができます。両者が「1対多」になっている場面に出会うこともあります。子どもたちの発言が多く聞かれますが、いずれも教師に対して発言していることが多いようです。鵜飼の鵜匠と鵜（子どもたち）の関係にたとえることができます。

いずれもここでの発言は、教師に向かって行われているところに共通点があります。話し合うというよりも、発表する、報告する、説明するという一方の発言です。

これらに対して、子どもたちの発言が互いに関わり合っている授業があります。ある発問（テーマ）について、よりよい考えを生み出すために話し合っているのです。討論、議論といったものでよいでしょう。ここでの子どもたちの発言を聞いてみると、「それに加えて発言します」「いまの発言に反対です」「〇〇さんに質問します」など、子どもたちの発言が相互につながっていることに気づきます。

子どもたちの姿勢にも変化が見られます。発言者は聞いている友だちに向かって発言しています。聞く子どもたちは発言者の方に顔を向け、聞きながらうなずいています。発言を聞き終わると、透かさず挙手します。

子どもたちが発言をつなげることによって、よりよい考えを創造していく話し合い活動が展開されます。

## INFORMATION

### 大好評 新学年へのパスポート 〇年へGO!



教科で選べるしあげ教材 ※写真は4年の例

## 編集後記

「なぜ学ぶのか」を考えると、思い出すのはこの一節です。

「少にして学べば則ち壮にして為すこと有り。壮にして学べば則ち老いて衰えず。老いて学べば則ち死して朽ちず。」  
（佐藤一斎／言志晩録） （F記）

企画・編集：ぶんけい教育研究所  
発行：株式会社文溪堂  
発行日：2017年3月1日